

## 資料編

### 資料Ⅰ 複数の担任での効果的な指導事例

第1節 複数担任による指導の工夫

第2節 指導の展開例

### 資料Ⅱ 特別支援学級（固定学級）のQ&A

- Q 1 特別支援学級（知的障害）における教科書について教えてください。
- Q 2 特別支援学級において、外国語活動を行う場合、どのような内容・方法に留意する必要がありますか。
- Q 3 特別支援学級において、体育指導を充実させるための留意点は何でしょうか。
- Q 4 特別支援学級において、「環境教育」をどのように取り扱うことがよいですか。
- Q 5 特別支援学級におけるキャリア教育の充実に向けて考え方を教えてください。

# 資料 I 複数の担任での効果的な指導事例

## 第 1 節 複数担任による指導の工夫

東京都公立小・中学校の特別支援学級は、複数教員の配置を原則としている。この趣旨を十分理解するとともに、利点を最大限に発揮し、より効果的な指導ができるように工夫する必要がある。ここでは、複数の担任による指導の型の分類を示した。

### 1 複数の担任による指導の型

複数の担任が役割を明確にした指導の例として、次の四つの型を検討した。授業では、児童・生徒の実態と課題等に応じて、これらを組み合わせて指導することが効果的である。

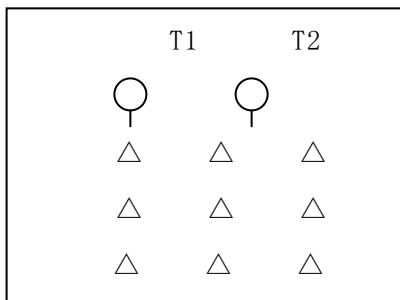
以下の図において、○は担任、△は児童・生徒を示す。

#### (1) 複数の指導者による全体指導

ア 指導者が協同して指導する型

担任が複数で協同して指導を行う。

《例：教師による模範の提示》



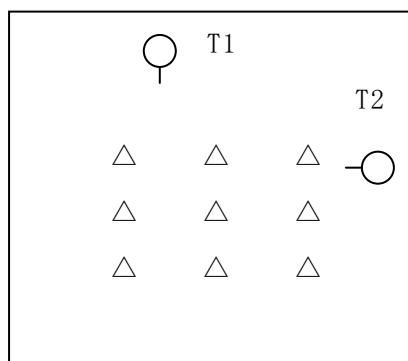
★ ロールプレイのモデルなど、それぞれが違う役割を演じることで、児童・生徒に立場の違いを意識づけることができる。また、課題によって T1 と T2 を交代する。

◇ 留意点 担任同士の役割を明確にしておくことが望ましい。担任同士の対話がコミュニケーションのモデルになるので有効に活用する。

イ 複数の指導者が、授業の展開に合わせて協同する型

指導者（以下、T1 とする。）を、授業の展開に合わせて他の担任（以下、T2 とする。）が行う。

《例：教材提示、機器操作等》



★ T2 が T1 の展開に合わせて、より分かりやすい教材等の提示が可能になる。

◇ 留意点 タイミング等について事前の打ち合わせをするとともに、児童・生徒の反応に応じた動きが必要である。

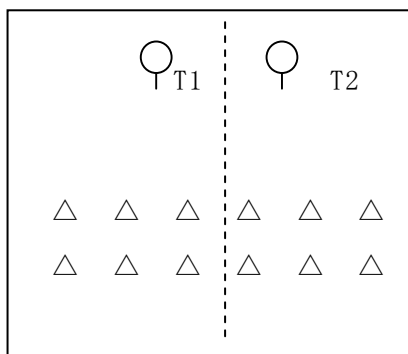
例えば、T1 の教示が児童・生徒に伝わっていないと考えられる場合、T2 は「先生、もう一回言ってください」「ここはどうするのですか」等、児童・生徒の思いを代弁することも有効である。

## (2) グループや個別的な指導

### ア グループを分けて指導する型

学習グループを分けて、それぞれに担任がついて指導を行う。

《例：課題別に分けての指導等》



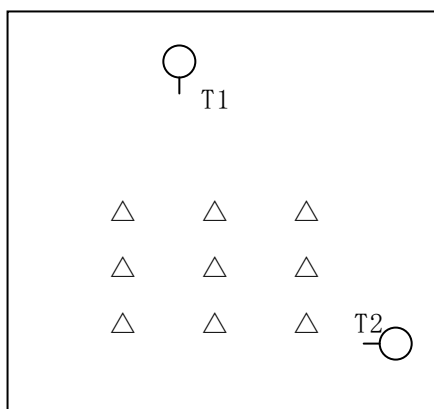
★障害の程度別グループ、均等グループ、活動内容別グループ、障害特性に応じたグループ等、グループの分け方をめあてや活動内容に応じて工夫できる。

◇留意点 指導の効果を上げるため、集団の構成人数を少なくする。担任数と同じ数だけのグループに分けることができる。

### イ 指導者が児童・生徒を個別的に指導する型

T1が全体を指導し、T2が個別に児童・生徒について指導を行う。

《例：全体学習の中での個別指導》



★児童・生徒が、集団を生かし、仲間と関わり合いながら、学ぶことができる。また、T2は、一人一人の苦手なことに対して、焦点を絞って支援しやすい。

◇留意点 集団の中で、T1による指導に児童・生徒がより参加できるように、T2が個別に支援する。

T2が特定の児童・生徒と大半の時間を個別的指導に費やした場合、授業の終末（活動の振り返り）の際、T2がその児童・生徒の活動について、他の児童・生徒に伝えるなど、学級での学習の高まりや成長を認めあうようにする。

これらの型を、単元や指導内容、指導方法によって組み合わせて、複数の担任による効果的な指導が実施されるようにすることが必要である。

## 2 指導形態の工夫

指導形態には、全体指導、グループ指導、個別指導等の形がある。

複数の担任を生かし、授業内容や個別の課題等に応じて、どのような指導体制が、より高い成果を挙げられるのかを検討する必要がある。

### 指導体制の分類

| 分類     | 指導形態              | 例  |
|--------|-------------------|--|
| 全体指導   | 学級全員              | 学級会、行事への取組 等                             |
| グループ指導 | 学年（生活年齢）に応じたグループ  | 学年別行事への取組など（運動会学年種目・学年遠足や社会科見学の事前・事後指導）等 |
|        | 発達段階に応じたグループ      | 教科学習 等                                   |
|        | 人数を縦割りで均等に分けたグループ | 異年齢を考慮した縦割りの活動 等                         |
|        | 授業目的や活動内容に応じたグループ | 音楽での楽器・パート別、図画工作でのはさみの課題別、体育での活動別 等      |
|        | 障害特性に応じたグループ      | 障害の特性に配慮した指導や場所の確保が必要な場合 等               |
| 個別指導   | 個別指導              | 国語や算数等、学習課題が一人一人異なる場合 等                  |

1 単位時間の中でも、全体指導→グループ指導→個別指導→全体指導というように、形態を組み合わせることが有効な場合もある。また、年間指導計画の中でも、単元に応じて指導体制の組合せについて検討し、指導形態を計画する必要がある。

### 3 指導を効果的に行うために

複数の担任による指導を十分に機能させて、より効果的な指導を行うために次の点について、留意することが必要である。

- (1) 児童・生徒一人一人の指導内容・評価の観点の共有化
- (2) 複数担任の役割の明確化

そのため、指導案には、複数の担任のそれぞれの動きや支援方法を明記することや、児童・生徒のグループの分け方と各グループを担当する教員の役割等を分かりやすい略図等を記載することなどを明記し、担任間で共通理解を図り指導を行うことが重要である。

## 第2節 指導の展開例

東京都公立小・中学校の特別支援学級は、複数教員の配置を原則としている。この趣旨を十分理解するとともに、利点を最大限に発揮し、より効果的な指導ができるように工夫する必要がある。ここでは、実際の授業場面で複数の担任が効果的に指導している2事例を示す。

### 1 指導の展開例1【小学校知的障害学級・算数】

低学年の算数グループ指導で、児童7名、指導者2名で行われている。児童7名の中でも学習の定着度に差が見られ、授業の後半は更に2つに分けて指導している。

10までの数の学習を、パネルシアターやテーマソングなどの児童が大好きな仕掛けを用いて、物語仕立てで楽しく展開している。前半の全体指導ではT1（担任1）が授業を展開する間にT2（担任2）は多動傾向の児童の支援を担当し、後半の個別課題の場面では、理解に時間のかかる3名についてT1が対応し、残りの4名をT2が担当している。

また、個別課題の内容では、「5をまとまりとして考える」を基本課題として「5と○で△になる」という次の段階を目指しながら、更に余力のある児童に対して発展的な課題も準備されている。全体場面においてT2は、多動傾向の児童への配慮をしつつ、T1の行うパネルシアター等の紹介に際して、積極的に反応し、グループ全体の活気を引き出している。

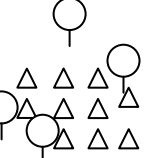
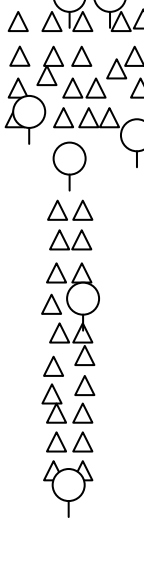
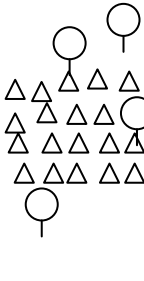
一方で児童が興奮して授業の進行の妨げになりそうな場面では、静かに注意して当該児童を落ち着かせている。複数担任による個別の進度に応じた課題学習が設定された結果、集中力の持続しにくい児童が気持ちを切り替えて取り組めるようになった。T2はT1とともに授業をつくり出す役割であり、これを手際よく行うためには、両者の間で事前の入念な打合せと準備が必要となる。

(1) 本時の展開例 教科等名<算数> 単元名<10までの数>

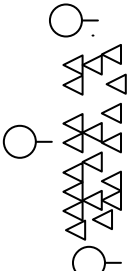
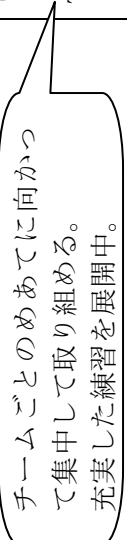
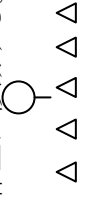
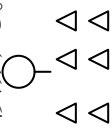
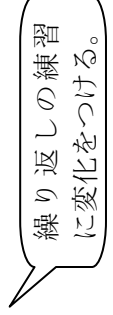
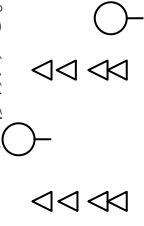
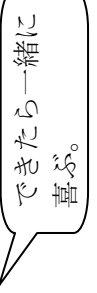
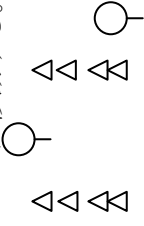
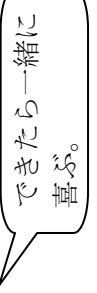
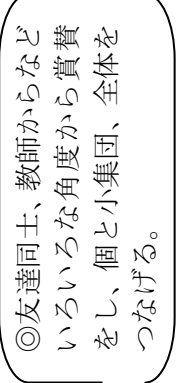
| 児童(低学年:7名)  | A・B・C   | D・E   | F・G  |
|---|---|---|--|
| 児童の実態、およその特徴・傾向   | 数字は1~10は読むことができるが、数の大小は分からない。数字はお手本を見て書けるものが増えているが、8・9などは練習中。5までの数は具体物を用いて繰り返し学習中。歌やパネルシアターが好き。ストーリーを分かり、模倣してパネルやタイロ操作が行える。 | 5までの数(数え取り・合成分解)を何とか分かる程度。数字の読み書きは、カレンダーなどを活用し1~30くらいまで練習中。気が散りやすく離席が多い。パネルシアターの内容は繰り返し学習すると理解し、個別支援で参加できる。新しい学習は不安を示す。   | 10までの数の合成分解など学習中。数え取りはほぼ正確に行う。数の大小は分かるが1対1対応で確かめないと数字を見ただけでは不確かなものあり。話を聞いて、活動内容を分かり、学習に取り組むことができる。挙手、発表など積極的で、友達の手本にもなれる。  |
| 学習活動  | 指導形態  | ・予想される児童の反応 ◎指導の工夫・支援 ◆評価   |  |
| <p>1. 学習の始まりを知る。</p> <p>♪すじのうた を歌う。</p>    |  <p>T2:集中が続かず、離席の多い児童につく。</p>              | <p>◎学習が始まることを意識し、注視できるようにキャラクター(算数案内人役)を登場させる。</p> <p>◎パネルシアターを使って、歌いやすいように、数字やものを提示しながら行う。</p> <p>◎パネルの数字を示しながら、声を出すよう促す。</p>  | <p>◎T2 がそばで一緒に歌うなど、注目し声を出すよう促す。</p> <p>◆よく歌えていたら、OK サインを送る。</p>  |
| <p>2. 「10までのかず」の学習についてのパネルシアターを見て、タイロが、全部でいくつか求める。</p> <p>・並べると、分かりやすいことに気付き、一列に並ばせる。</p> <p>・一列に並べたタイロを見て、ぱっと見て分からない状況に気づく。</p> <p>こまったなあ、どうしよう?</p> <p>・「5でかためる」こと、「5と2で、7」になることをパネルで確認する。</p>   | <p>T2:落ち着かない児童のそばにつきながら、全体の注意と集中を促す。</p>   | <p>◎子供たちに言葉をかけながらパネルをはり、楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>・前時を思い出し、楽しみにしながら、パネルに注目している。</p> <p>◎テーマソング「♪ぱっとみて分からない」を歌い、どうすべきか考えさせる。</p> <p>◎パネルを見ながら、どう並べせたらよいか、考えている。</p>  <p>・「♪へんしんのうた」を歌いだす。</p> <p>◎5でかためることに気付くことができるようパネルを操作する。</p> <p>◎テーマソングを歌い、「5でかためる」こと、「5と2で、7」になることに気付かせる。</p> <p>◎パネルに注目して、テーマソングと一緒に歌っている。</p> | <p>◎T2 が、そばで言葉をかけパネルに集中を継続させるようにする。</p> <p>◎パネルを見たり、友だちの声を聞いたりして、自分でも並べせ方を考えている。</p> <p>◎どうすればよいか分からないときは、T2 がヒントの言葉かけを行いパネルに注目するよう促す。</p> <p>◎T2 が、そばで一緒にテーマソングを歌いながら、パネルに注目</p> <p>・前時までの学習を思い出し、次を予想しながらパネルに集中している。</p> <p>◆分かりやすい並べせ方について、考え発表する。</p> <p>◎登場キャラクターの表情に注目させて、分からなくて困っている状況に気付かせる。</p> <p>・「5にかためて、へんしんだ!」</p> <p>◆5でかためることが分かる。</p> <p>・手本となりパネルの操作を行う。</p> <p>◆「5と2で?」と問いかけると7ですね」と答えることができる。</p>  |
| <p>3. 自分の課題に取り組む。</p> <p>A~C 児の例</p> <p>パネルの再現、操作活動タイロ操作「5と〇で、△」</p> <p>・自分の手元でタイロを操作する。</p>  <p>・「5でまとめるケース」を使って、「5のかたまり」を作る。→5と〇で、△</p> <p>・それぞれのタイロの数を出し、記入用紙に書き入れる。</p>  <p>ヒントカード例</p>       | <p>T1・T2:机間指導しながら支援・評価を行う。</p>           | <p>◎個別課題が届くのを楽しみに待つよう言葉をかけ、それぞれに課題を配る。</p> <p>◎自信がない問題に、取り組むことを渋る傾向がある児童には、安心して取り組むことができるよう、パネルで示したのと同じ数のタイロを渡す。本時の学習を生かし、自分でタイロ操作できるよう、T1 が言葉をかける。</p> <p>◆タイロを操作して、5のかたまりを作り全体量を求めようとする。</p> <p>◎「5と〇で、△」のヒントカード(タイロ図)を用意しておき、自分の求めた全体量と同じカードを見つけたよう言葉をかける。</p> <p>◎書けないときは、お手本を渡すか、蛍光ペンや点線などで補助を入れ、よく見てなぞって書くよう促す。</p>   | <p>D・E 児の例</p> <p>◎実態に合わせて、5~10までの数の合成・分解の習熟、たし算・ひき算などの計算練習の学習プリントを行う。</p> <p>◎分からないときは、百玉そろばんやタイロを使って、自分で確かめられるよう準備しておく。</p> <p>◆自分のやるべき課題に、集中して取り組んでいたらほめる。</p> <p>◎周囲に気を取られることなく、マスからはみ出さないよう、手元をよく見て丁寧に書くよう、言葉をかける。</p> <p>◆一枚終わったら、T2 がその場で評価し、次の課題に取り組むよう言葉をかける。</p> <p>◎決められた学習が終わった児童は、用意しておいたお楽しみプリントを行う。(迷路や算数ゲームなど)</p> <p>F・G 児の例</p> <p>◎実態に合わせて、10までの数の合成・分解の習熟、10までの計算練習のドリルや学習プリントを行う。</p> <p>◆机間指導しながら適時、評価する。</p>  |
| <p>D~G 児 実態に応じた個別課題の学習プリントなどを行う。</p> <p>4. 学習のまとめの話を聞く。</p>   | <p>T2:最後まで学習に集中できるよう言葉をかける。</p>          | <p>◆よく見て書いていたら、評価する。</p> <p>◆興味をもって楽しく本時の学習活動に取り組んでいたことをほめる。</p>  |  |

## 2 指導の展開例2【小学校知的障害学級・生活単元学習】

(1) 単元の展開例 教科等名<生活単元学習> 単元名<学習発表会を成功させよう>

| 単元計画        | 学習活動<br>( )内の数字は時数   | 指導形態  | ◎担任による指導工夫<br>(教員の配置)<br>◇自立活動に関する配慮事項   |
|-------------|--|---|--|
| 知る          | <p>(1) <b>学習発表会って何だろう？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、どこで、だれとするのかわかる。</li> <li>・どうしてするのか考える。</li> <li>・「そんごくう」のイメージをもつ。</li> </ul>   |         | <p>◎T2 機器操作<br/>◇個別に指名する。</p> <p>視覚に訴える教材を用意する。。</p>   |
| 劇に取り組み      | <p><b>劇の練習をしよう。</b></p> <p>(2) 自分のやってみたい役を選んだり、歌の振り付けを考えたりする。</p> <p>(3) マイクでセリフを言い、劇全体のイメージをもつ。<br/>(本時4, 5)の練習によりセリフと動きを覚える。</p> <p>(6, 7)協力して背景を作る。</p> <p>(8, 9)自分の使う小道具を作りイメージを膨らませる。</p> <p>(10, 11, 12, 13)体育館で練習し、劇遊びと歌、踊りを通して表現活動を楽しむ。</p>  | <p>Aチーム<br/>児童5名<br/>T2</p> <p>Bチーム<br/>児童6名<br/>T3</p> <p>CDチーム<br/>児童8名<br/>T4 (T1)</p> | <p>◇自分の意思を表示するよう促す。</p> <p>◎チームごとに場面練習、歌の練習、台詞の練習と分ける。</p> <p>◇順番を示す。</p> <p>◎グループの進行状況の情報交換を行う。</p> <p>◎個別の課題に応じて支援する。</p> <p>即時評価と励ますことの機会が増える。</p> <p>◇相手とコミュニケーションをとりながら進める</p>                              |
| リハーサルと本番を行う | <p>(14) <b>会場までの行き方を知ろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電車利用のマナーを考える。</li> <li>・リハーサル、本番への意欲を高める。</li> </ul> <p>(15, 16, 17) <b>リハーサルをしよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入場から退場までを通して行う。</li> <li>・全校種目、体育種目、リズムなども行う。</li> </ul> <p>(18, 19, 20, 21) <b>いよいよ本番だ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルールを守り歩行する。</li> <li>・劇の発表や他校の演技を鑑賞する。</li> <li>・他校の友だちと交流を図る。</li> <li>・学習発表会を楽しむ。</li> </ul> <p>(22) <b>学校みんなにも見せよう。</b><br/><b>(集会で発表)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会で劇を発表し通常学級の児童、校内の職員との理解を深める。</li> </ul> |       | <p>◎T1, T2がロールプレイのモデルとなる。</p> <p>役割の違いを意識できるようにする。</p> <p>◇挨拶をできたら褒める。</p> <p>◎歩行時の役割分担を確認する。</p> <p>集団行動と個別対応の役割分担を明確にする。</p> <p>◎T1次にすることを的確に指示する。</p> <p>◎T2 3 4一人ひとりの様子を見て適切に支援する。</p> <p>◇まわりの様子を気づかせる。</p> |
| 振り返る        | <p>(23) <b>がんばった友だちに賞状をかこう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオや写真を見たり、校長先生や支援員さんの感想を聞いたりして、自分や友達のがんばりを認める。</li> </ul> <p>(24) <b>劇の絵を描こう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や小道具を見ながら、楽しい思い出を絵に表す。</li> </ul>   |       | <p>◎T2 機器操作</p> <p>◎T1 事前にゲストティーチャーと打ち合わせる</p> <p>◇自分の役割を果たせるよう支援する。</p>   |

(2) 本時の展開例 「場面ごとに練習しよう。」全体の流れ

|       |  | 学 習 活 動   |   |
|-------|--|---|---|
|       |  | A チーム 5 名   | B チーム 6 名   |
|       |  | CD グループ 8 名   |   |
|       | <p>◎担任による指導の工夫</p> <p>◇自立活動に関する配慮事項</p> <p>・日直のあいさつ</p> <p>1. みんなで楽しく歌おう！</p>   | <p>・大きな声で台詞を言う。</p> <p>◇みんなと一緒にあいさつするよう個別に支援する。</p> <p>T2 3 4 児童のそばで一緒に歌ったり、リズムに乗って体をゆらしたりして、個別に支援する</p> <p>T1 歌詞を先に読んで歌ったりして歌を歌えようモデルとなる。</p>  | <p>・歌詞を覚えて歌う。</p> <p>◎役割を明確に分ける。</p>  |
| 導 入   | <p>2. チームに分かれて練習しよう</p> <p>・チームのめあてを確認し、教室に分かれて練習する。</p> <p>◇チームごとに呼び、起立させ、移動場所を伝えて順に教室移動をする。</p> <p>チームごとのめあてに向かって集中して取り組める。充実した練習を展開中。</p>  | <p>工作室に移動する。</p>  <p>・「おいらが○○だ。」と順番に言う場面を練習する。</p> <p>T2 台詞を言えたら次の人に進むことを始めに話し、視線、表情、態度からも言おうとしていることを褒める。2人ずつ、みんなでも何回も行う。</p> <p>◇友達と一緒にがんばろうという気持ちを育てる。</p> <p>・みんなで歌う歌を練習する。</p> <p>T2 3 4 少しずつできるようになってきていることを強調して話す。</p> <p>T2 3 4 リードして進めた児童にがんばったところを言うよう促す。</p> <p>T2 3 4 個別に指名し、同じ役で相互に評価させる。</p> <p>◇T1は、他のグループもがんばっていることを個別に確認し、発表を聞けるようにする。</p> | <p>ワークシートに移動する。</p>  <p>・どんな場面か、どんな役かを考えながらアイデアを出し合う。</p> <p>T3 アイデアのある児童を指名し、前に出てきて動きをやってみせるよう促す。それを見たあと全員でやり、動きのよさを指摘する。</p> <p>◇アイデア発表、みんなで見るといってパターンでテンポよく何度も行おう。</p> <p>・曲をかけて踊る。</p>   |
| 展 開   | <p>T1 CD チームを中心に指導する。各チームをまわり、お客さんの立場となり、がんばっているところを褒める。</p>    | <p>ワークシートに移動する。</p>  <p>・ソロで歌う部分、かけあいで歌う部分を練習する。</p> <p>T4 歌う時は立って、一歩前にでよう話す。ピアノでゆっくりメロディーを弾いて丁寧に進める。</p> <p>◇マイクを使って、自分の歌声や音がよくわかるようにする。</p>  <p>・テンポを速めて練習する。</p>   | <p>ワークシートに移動する。</p>  <p>・ソロで歌う部分、かけあいで歌う部分を練習する。</p> <p>T4 歌う時は立って、一歩前にでよう話す。ピアノでゆっくりメロディーを弾いて丁寧に進める。</p> <p>◇マイクを使って、自分の歌声や音がよくわかるようにする。</p>  <p>・テンポを速めて練習する。</p> |
| ま と め | <p>2. グループの進み具合を報告する。</p> <p>T1はT2 3 4に進み具合を尋ねる。</p> <p>・教師や友達の話を聞き、練習が進んでいることを感じる。</p> <p>・日直のあいさつ</p>                                       | <p>◎友達同士、教師からなどいろいろな角度から賞賛をし、個と小集団、全体をつなげる。</p>   |   |



### (3) 指導の効果及び配慮事項

本単元では、学級全体を4つのチーム（A～Dチーム）にグループ分けを行い、学習発表会での舞台発表の場面ごとに計画的な指導を行った。

本単元の主担当であるT1以外の担任（T2、T3、T4）は、各チームに固定して指導に当たるようにした。チーム内で、舞台発表に向けた練習を繰り返すことで、児童同士の関わり合いが深まるとともに、チームを指導している担任への信頼関係もより確かなものへと変わっていく様子が見られた。また、チーム内で、友達の演技を認めたり励ましたりする関係ができ、演技をより良い内容にしていこうとする主体的な取組が見られるようになった。

複数の担任による指導では、グループごとに、指導目標に合わせた適確な指導が実施でき、児童にとっても何をやるか分かりやすくなっていた。指導後には、複数の担任間で、グループ内の指導目標に対する評価や指導の到達点について協議を重ねることで、指導の効果がより一層向上した。

指導方法の面では、児童の興味・関心に応じてプレゼンテーションソフト、ビデオの活用や、ゲストティーチャーによる演技指導などを組み合わせることで、児童が最後まで、関心を維持することができるように授業の展開を工夫した。このようなプレゼンテーションソフトやビデオを活用する場合においても、授業の中で児童に提示するタイミングを複数の担任間で共通理解を図ることで、複数の担任での指導を効果的に行われるように工夫をした。

特別支援学級において、学習発表会の取組みは生活単元学習として事前・事後学習が位置付けられることが多い。生活単元学習は、児童・生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することにより、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習できるものである。

学習発表会の舞台発表の取組みを通して、児童・生徒が生活に必要な事柄を学習できるようにしていく必要がある。本単元では、舞台発表のリハーサル会場までの行き方、電車の利用の仕方、車内でのマナーについても計画的な指導を行った。更に、学習の成果を生かせるように、学習発表後に予定されている校外学習では、電車の利用を目的の一つとして指導内容等を設定するなど、学習の継続性を計画的に考えている。

### 3 指導の展開例3【中学校知的障害学級・英語】

学級全員で行う英語の授業で、8名の生徒に対して2名の指導者によるTT（ティーム・ティーチング）の実践である。中学校の指導では、生徒の障害や発達状況への配慮に加えて、不安や恥ずかしさ、自尊感情や傷つくことを恐れた反抗的態度等、生徒の様々な反応に対する対処が求められる。特に英語の授業では、生徒はアルファベットや単語の理解に加え、自ら聞いて話すというコミュニケーションの力が必要となり、苦手意識を持ちやすい。

本単元では「好き嫌い」の表現を軸にして、自分や友達が好き嫌いをやり取りしながら、最終的に自己紹介ができるようになることを目指したもので、事例ではまとめとなる自己紹介の授業を展開している。一斉指導の場面では、T1（担任1）が全体の進行をする間、T2（担任2）は消極的になりがちな生徒のそばに行き、授業に参加しやすいようにサポートしている。

個人練習の場面では、T1とT2が共に教室内を回って、一人一人の練習の様子を観察し、適切な支援を個別に行う。ここで、指導者は支援と同時に、生徒たちの学習状況の評価も行っており、次の発表場面での支援のレベルを推し量っている。このように特別支援学級の授業の中では、T1とT2が主・副という関係だけでなく、2名が同時に同様の支援にあたる場合が少なくない。両指導者の緻密な連携が必要となる事例である。

#### (1)単元の展開例

| 単元計画                      | 学習活動  | ◎担任による指導工夫<br>(教員の配置)<br>◇自立活動に関する配慮事項  |
|---------------------------|---|---|
| 好き嫌いについて聞き取る              | ○「Do you like～? I like～ .」という表現を知る。<br>・チャンツを聞いて、自分自身や隣の生徒とペアで繰り返す。<br>○表現を聞くこと、聞いたまま真似て言うことの大切さを知る。<br>○普段耳にする外来語と英語の音の違いに気付く。 | ◎T2は聞き取れていない生徒への情報を補ったりする。<br>◇T1は視覚的な提示をして、注意・集中を喚起する。<br>◇ペアやグループ活動の時、T2が、ふさわしい行動や文を言えたら即時評価する（「今の発言はいいね」など）。 |
| 自分の好き嫌いを相手に伝える            | ○好きな物は何かの文を覚え、やりとりができる。<br>○友達の発表に耳を傾ける気持ちを持ち、協力してやり取りできる。  | ◎表現の練習がもう少し必要な生徒には、個別に視覚的な補助をする。<br>◇生徒同士の関係を調整し、必要に応じて間に入る。  |
| 友達に好き嫌いを尋ねる               | ○自分の好きなものを書き出し、友だちにそれが好きか尋ねる。<br>○グループ内の他の人も練習する。   | ◎かかわり方が難しい、消極的な生徒へはT1、T2が指導に当たる。<br>◇表現に成功したときに、即時評価して自信をつけさせる。   |
| 自分の好きなものを含め自己紹介する<br><本時> | ○自己紹介をしよう<br>○友だちの発表に耳を傾ける気持ちを持ち、発言や聞く態度に気をつけることが出来る。   | ◇T1は一人一人への評価をコメントし、全体へは聞く態度がどうだったか評価する。   |

(2) 中学校特別支援学級教科「英語」における効果的な指導の展開例

|                  | 学習活動   | 指導形態   | ◎指導の工夫や支援<br>◆評価   |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
|------------------|--|--|--|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---|
| 導入<br>(5)        | <p>○全体で挨拶をする。</p> <p>○今日の表現を知る。<br/>「Hello. My name is ～. I like ～. Thank you.」と自己紹介する。</p> <p>○大きな声で挨拶する。</p>   |  | <p>◎T1は今日の学習内容について視覚的な提示をする。</p> <p>◎T2は生徒の発声をリードし、やる気を喚起する。</p> <p>◆大きな声で挨拶できる。</p> |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 展開<br>(40)       | <p>○絵カードを黒板に貼り、CDをかけ、チャンツを言って表現の復習をする。</p> <p>・チャンツ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>♪Do you like apples? ♪<br/>Do you like apples?<br/>Yes, I do. Do you like milk?<br/>Yes, I do. Do you like bananas? No, I don't.<br/>Do you like dogs?<br/>No, I don't.</p> </div> <p>○自己紹介のやり方を説明する。</p> <p>○生徒はグループで練習をする。</p> <p>○1つのグループが前に出て、一人一人自己紹介をする。</p> <p>○もう一つのグループは聞き取りのワークシートを記入する。</p> | <p>T1、T2が課題別指導にあたり、同時に評価をする。</p> <p>ワークシートの例</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>氏名 _____</td> </tr> <tr> <td>友達の名前 (        )</td> </tr> <tr> <td>好きなもの [        ]</td> </tr> <tr> <td>友達の名前 (        )</td> </tr> <tr> <td>好きなもの [        ]</td> </tr> <tr> <td>友達の名前 (        )</td> </tr> <tr> <td>好きなもの [        ]</td> </tr> </table> | 氏名 _____   | 友達の名前 (        ) | 好きなもの [        ] | 友達の名前 (        ) | 好きなもの [        ] | 友達の名前 (        ) | 好きなもの [        ] | <p>◎T1、自己紹介の表現を示す(板書)</p> <p>◎それぞれのグループで、T1とT2がやってみせる。</p> <p>◆積極的に練習が進められる。</p> <p>◆チャンツの文のとおり話すことができる。声の大きさを調節できる。</p> <p>◆友達の発表に耳を傾けられる。</p> <p>◎T2が聞く態度の模範を示し、同時に発表者の緊張を和らげる。</p> |
| 氏名 _____         |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 友達の名前 (        ) |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 好きなもの [        ] |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 友達の名前 (        ) |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 好きなもの [        ] |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 友達の名前 (        ) |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| 好きなもの [        ] |  |  |  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |
| まとめ<br>(5)       | <p>○今日の表現が使えたかを振り返り、発表を終えた感想を言う。</p> <p>○挨拶をする。<br/>「Good-by, Mr. ～. See you.」</p>   |  | <p>◎T2、小さな声、発言をひろい、全体に伝える。</p> <p>◆感想が言える。</p>                                       |                  |                  |                  |                  |                  |                  |   |

(3) 指導の効果及び配慮事項

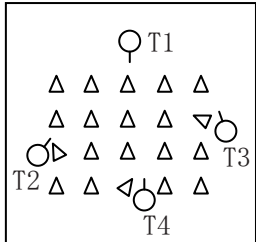
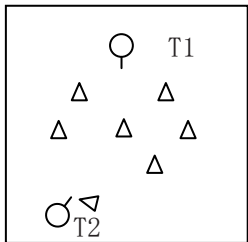
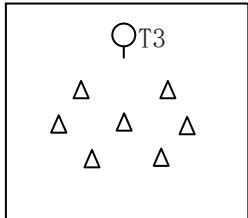
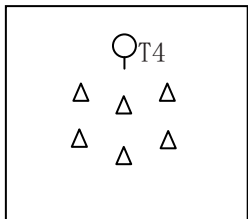
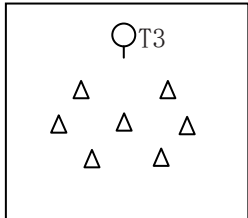
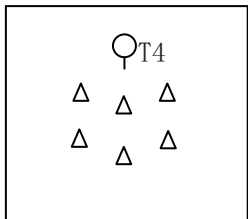
生徒の、発表することが恥ずかしい気持ちや人前で失敗したくない気持ちを考慮し、T2が生徒の発表をサポートして、生徒の発声を促すなどして全体が活発的な雰囲気となるように留意する。

上手に発表や表現できない生徒がいたときは、T1とT2が生徒の様子と授業の進行に合わせて生徒の支援を行う。

T2は生徒の注意・集中をよく観察し、必要に応じて視覚的な支援を個人的に与えるなど、生徒が集中して取り組めるような支援を心がける。

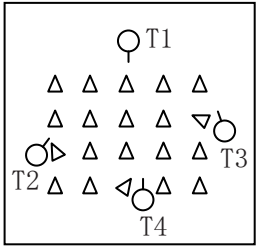
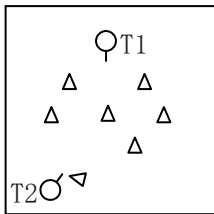
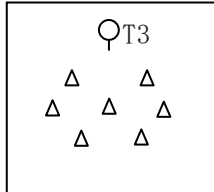
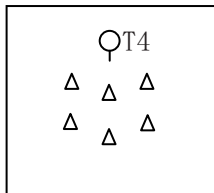
#### 4 指導の展開例3【中学校知的障害学級・総合的な学習の時間】

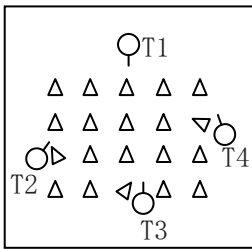
(1)単元の展開例 教科等名<総合的な学習の時間> 単元名<生き方学習>

| 単元計画                   |                        |                        | 学習活動   | 指導形態   | ◎担任による指導工夫<br>(教員の配置等)<br>◇自立活動に関する配慮事項  |
|------------------------|------------------------|------------------------|--|--|--|
| 1年<br>(3時間)            | 2年<br>(2時間)            | 3年<br>(2時間)            | <p>・<b>個人年表作り</b><br/>生まれてから今までの歴史を振り返り、自己理解を深める。</p> <p>1年生は、年表内にある誕生日～保育園(幼稚園)～小学校～中学校入学までの年号と日付の記入、それぞれの時期に起きた印象的な出来事を記入していく。2、3年生は前年度に記入したものにエピソードを加筆していく。</p> <p>それぞれのエピソードには、その時の気持ち(うれしかった、つらかった、楽しかった、つまらなかったなど)をできるだけ思い出して添えるようにする。</p> | <p>全員(全体指導)</p>  <p>グループ<br/>(学年別指導)</p>    | <p>◎エピソードを思い出せない生徒には、年度ごとの大きな行事などの話をしながら思い出せるように支援する。</p> <p>◎ネガティブな過去を記述していく生徒には、ポジティブな内容に変えるような支援をする。</p>            |
| 1年<br>(2時間)<br>*本時3/12 | 2年<br>(2時間)<br>*本時3/10 | 3年<br>(2時間)<br>*本時3/25 | <p>・<b>未来予想図作り</b><br/>今の自分を踏まえ、これから先の自分の未来について、予想図(高校進学、就職、自立した生活について)を作成する。</p> <p>個人年表の続きが未来予想図になることを理解し、1年生は2年生以降の未来、2年生は3年生以降、3年生は高校入学以降についての未来を考える。</p> <p>2、3年生は前年度に記入した予想図について、今の自分と比較して「予想」と「現実」に違いがあることを受け止め、ありのままの自分を少しずつ理解していく。</p>  |    | <p>◎未来予想図の作成に当たっては、本人の思うとおりに記述できるように支援し、夢をもたせるようにする。</p> <p>◇前年度の振り返りの場面で、落ち込んでしまう生徒には個別に声かけをし、今の自分を肯定できるような支援をする。</p> |

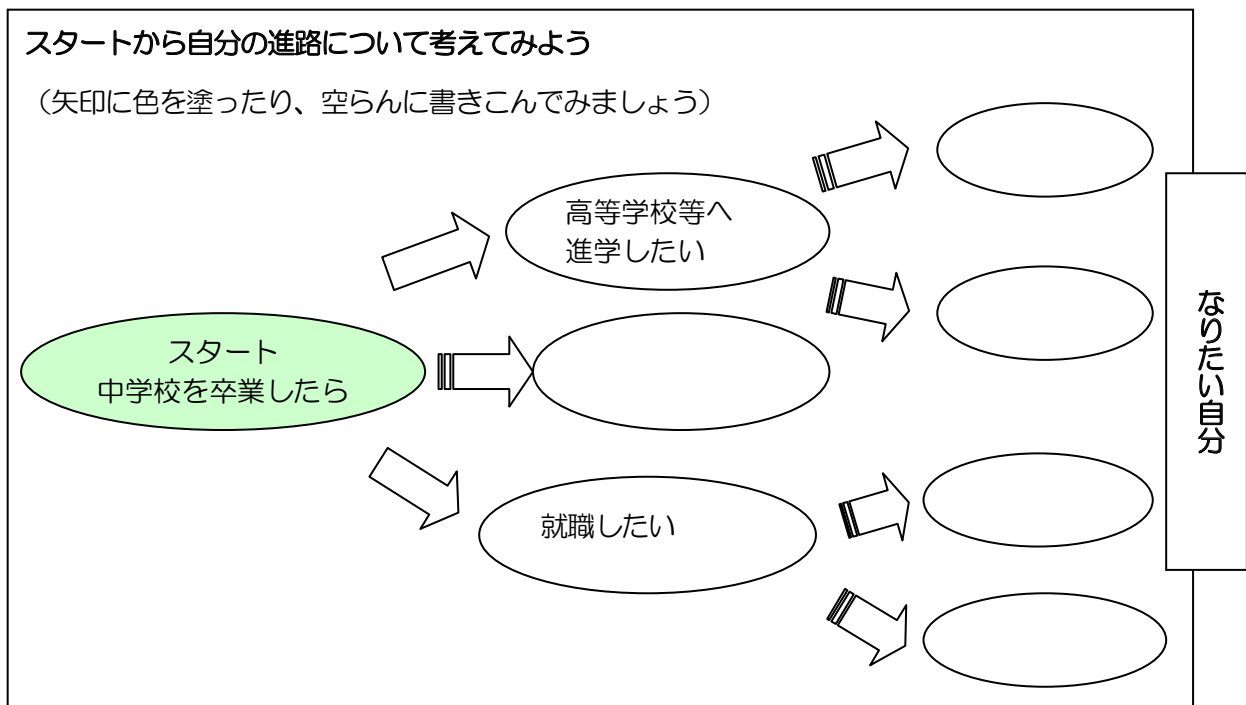
|    |                     |                         |  |   |  |
|----|---------------------|-------------------------|--|---|--|
| 1年 | 2年<br>(事前事後2・当日4時間) | 3年<br>(事前事後3・当日6時間を3日間) | <p>・<b>職場見学(1年生)</b><br/>働く現場を見に行き、働くことの意味やその上で必要な資質など現場の方々に質問したり、自分の考えをまとめたりする。<br/>*学校の近くにある特例子会社を1年生全員で訪問する。</p> <p>・<b>高校訪問(2年生)</b><br/>上級学校を訪問し、中学校と高校の違いや高校によって、授業の内容やその先の進路に違いがあることなどを実際の授業に参加理解したり、訪問先の先生に質問したりし、自分の進路について考える。<br/>*生徒の実態に応じて、地域の都立特別支援学校普通科、若しくは職業学科を2年生全員で訪問し、授業体験をする。</p> <p>・<b>職場体験(3年生)</b><br/>実際の職場で働くことで、楽しさや厳しさを体験し、自分の将来について考える。<br/>*生徒の実態に応じて3グループに分ける。</p> <p>A 自立の基礎を目指す生徒<br/>例) 近隣にある特例子会社、もしくは福祉就労機関</p> <p>B 職業自立を目指す生徒<br/>例) 学校周辺のコンビニエンスストアなど</p> <p>C 社会的に自立した生活を目指す生徒<br/>例) 近隣の企業での体験</p> <p>A、B、Cグループ共に、体験先で困ったことが起きた場合には、まずは体験先の方に質問したり、お願いしたりする。事前学習ではお願いの仕方、質問の仕方をロールプレイで学習する。<br/>解決困難な出来事やどうしても体験先の方に自分でお願いできない場合は、引率の先生に助けを求める。</p> | <p style="text-align: center;">グループ<br/>(学年別指導)</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">◀ Δ ▶</p> <p style="text-align: center;">○T2</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">◀ ▶</p> <p style="text-align: center;">○T3</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">◀ ▶</p> <p style="text-align: center;">○T4</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">○T1<br/>は各事業所を巡回する</p> | <p>◎3学年は、認知特性に応じて体験場所が3ヶ所に分かれるため、学年を更に3グループに分ける。</p> <p><b>1、2、3年生</b><br/>訪問前の事前学習で、訪問する職場の場所やその行き方、どんな職種かなどワークシートを利用して事前学習を行う。</p> <p>◎コンピュータを利用した調べ学習を行うがその際、入力が苦手な生徒、インターネットをそのように利用したら良いかわからない生徒には、個別の支援を行う。</p> <p><b>1、2、3年生</b><br/>◇訪問先で、初めての場所や人に対して不安になり、落ち着かなくなった生徒には個別に対応し、一旦その場を離れるなどの方法で支援する。</p> <p><b>2年生</b><br/>◎あらかじめ訪問する学校と十分な打ち合わせを行い、授業の体験が可能か確認する。</p> |
|----|---------------------|-------------------------|--|---|--|

(2) 本時の展開例 <未来予想図を作ろう>

|             | 学習活動   | 指導形態   | ◎指導の工夫や支援<br>◆評価  |
|-------------|--|--|---|
| 導入<br>(10分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> </ul> 『未来予想図を作ろう』 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来」とは何か理解する。</li> <li>・「予想」とは何か理解する。</li> </ul>  | 全員（全体指導）   | T2～T4 は、個別対応の必要な生徒への支援<br>◎そわそわしたり、身体が動いている生徒には、必要に応じて、時間を決めて別室で休んだり、教室を出て身体を動かしたりするようになる。  |
| 展開<br>(30分) | グループに分かれる（学年別で教室も分ける）<br><br><1学年> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記入の仕方を確認する。</li> <li>・「2年生になったら」の書式の説明を聞き、ワークシートに記入する。</li> </ul> <2年生> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の振り返りをする。（1年生のときに書いたものを見て、今の自分と照らし合わせてみる。）</li> <li>・ワークシートの記入の仕方を確認する。</li> <li>・「3年生になったら」の書式の説明を聞き、ワークシートに記入する。</li> </ul> <3年生> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の振り返りをする。（2年生のときに書いたものを見て、今の自分と照らし合わせてみる。）</li> <li>・ワークシートの記入の仕方を確認する。</li> <li>・「高校生になったら」の書式の説明を聞き、ワークシートに記入する。</li> </ul> <ワークシート抜粋> | グループ（学年別指導）<br><br><1学年> <br><2学年> <br><3学年>  | ◎1学年に T1 と T2、2学年に T3、3学年に T4 がついて、それぞれの学習指導を行う。<br><br>◎学習中に思うようにワークシートに記入できない生徒への支援を行う。<br>◇落ち着かないときに自分から支援を求めることができるか。<br><br>◎T1 は全部の教室を巡回し学習の進捗や生徒の様子を把握し、必要な支援をその都度行う。<br><br><b>◆1年生</b><br>今までの自分の歴史の様々なエピソードから、自分の得意なこと、苦手なことが分かり、「未来予想図」に反映することができる。<br><br><b>◆2年生</b><br>「未来予想図」の振り返りで、自分がやりたいと思っていることと実際にできることに違いがあることが分かる。それを、次の「未来予想図」に反映させている。<br><br><b>◆3年生</b><br>「未来予想図」の振り返りで、自分がやりたいと |

|              |  |  |   |
|--------------|--|--|---|
|              |  |  | 思っていることと実際にできることに違いがあることが分かる。それを、次の「未来予想図」に反映させている。 |
| まとめ<br>(10分) | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体でまとめを行う。</li> <li>本時のまとめと次回の学習予定の確認をする。</li> <li>授業の終わりの挨拶をする。</li> </ul> | 全員（全体指導）<br> | T2～T4は、個別対応の必要な生徒への支援をする。                           |

使用したワークシート「未来予想図」の一部



## (2) 指導の効果及び配慮事項

複数の教員が学年ごとやグループごとに分かれて指導することで、それぞれの学年で目的やねらいに合ったキャリア教育を展開することができる。

学年別の学習では、T1が全体の様子を把握し、適宜個別の対応を行うことで、学年内の個人差にも対応することができる。

グループに分かれる指導では少人数になるため生徒は落ち着いて学習に取り組めるが、全体指導の場では落ち着かなくなる生徒が見られる。そのため、T2～T4はあらかじめ支援が必要になると思われる生徒を事前に確認し合い、個別の支援の計画を立てておくことが大切である。